脳・神経センター・リハビリテーションセンター

長崎北病院 伝言板 2月号

令和4年2月1日発行

2月。家の前の梅の枝にぽつりと白い点。梅の開花です。「梅一輪 一輪ほどの 暖かさ （服部嵐雪）」。春は近くに居ます。「春よ 遠き春よ 瞼閉じればそこに愛をくれし君の なつかしき声がする（松任谷由美）」の歌詞が浮かびました。まだ遠き春かもしれないが春は来る、絶対来る。



「生きてりゃ誰だって人に迷惑をかける」

油断も隙もあった。昨年の末ごろ、長崎県でも発生者0の日が続き、開放感に溢れていました。久方ぶりに深呼吸出来る日々。コロナのことは忘れそうでした。心の底では「このままで済まないだろう」と思いつつも、「このまま行って欲しい」。気持ちも行動も緩んでいました。楽しい正月。そして1ヶ月。一日の発生は600名を超え別世界へ。アニメ「風の谷のナウシカ」の世界であれば清涼な世界から毒の空気である瘴気（しょうき）溢れる腐海（ふかい）に戻ったような感じです。恐ろしき「オミクロン」。



あまりに増え過ぎて保健所も対応できず。陽性者、濃厚接触者などの追跡もできなくなっています。検査も追いついていないでしょう。実際の患者さんは発表の何倍かいるのではないかと思っている人が多いと思います。コロナはどこにでもいる、誰でもかかり得る状態。特に学校、保育園、職場などでの発生が続いており、家族（職員）が発症したり濃厚接触者となって出勤できないケースが増えています。働ける人が削られていきます。残った人で頑張りますが病院や施設で院内感染やクラスターも発生しています。姿が見えないオミクロンが隣にいるかもしれない、忍び寄る恐怖。今のところ当院では職員が減っていくという大波は受けていますが院内へはコロナは入っていません。何とか持ち堪えています。あたかも銃弾が飛び交う中をマスクーつで匍匐前進（ほふくぜんしん）している気分。いつ、誰でもコロナ弾に当たってもおかしくない状況です。マスク、手洗い、三密避けるなど感染防御に注意すれば感染は減らせますが0にはできません。誰もが陽性者になる可能性があります。自分がコロナ陽性や自宅待機になったとします。家族に病気を移すかもしれない、職場で広げたのではないか、仕事ができない、職場に迷惑かけた。心配が渦巻ます。わざと他人に移そうとする「犯罪的」な人や全く感染防御せずなどの人は論外。非難されてもしょうがありません。しかし、多くの方はたまたま感染症にかかっただけです。しょうがない。他人に移す事もあるでしょうがしょうがない。誰でもあり得ます。当院でも職員が感染したり、休めば大変。周囲は忙しくなり 感染が広がればさらに大変。しかし、そういう事もある。誰のせいでもない。たまたま、不運。それだけ。良くなって職場に戻ってきたら「ただいま、迷惑かけました」「おかえり。あんたが居なくて大変だったわ」で終わり。（あんたが居なくても何も困らなかったと言われる方が問題😓）。



先日 スイスで出産、育児した人の話を読みました。色々カルチャーショックがあったそうです。「生活のあらゆる部分に『こうであるべき』と言う考えがありました。子育ても「人様の迷惑にならない子に育てなければ」と言う日本人独特の考えもありとても苦しかったです。ある日、インド人のママ友が、「インドではね、子どもたちに生きてりゃ誰だって人に迷惑をかけるんだから、人に優しく寛大に、許してあげる人になりなさい。って教えるの」と聞かされて。目から鱗がボロボロ。そのとおりだなと。



人に迷惑をかけないって無限大に難しい課題ですよね。その教えを聞いてから、こだわりや理想を出来るだけ捨てて、育児が少し楽になり、楽しくなりました」という。迷惑かけまくる人も困りますが、負担をかけることも負担をかぶる事もある。「お互い様」でしょう。我が身を守って「お互い様」で生き抜きましょう。（A.S.）